

## 5月の防除のポイント

平成31年4月25日  
東京都病害虫防除所

主な作物の病害虫防除について、お知らせします。

### <キュウリ・ナス・ピーマン等>

#### ○アブラムシ類

キュウリやナス及びピーマン等の定植が始まると、アブラムシ類の対策が重要になります。本種は直接の吸汁害を引き起こすだけでなく、ウイルス病も媒介します。防除指針を参考に定植時の粒剤処理及び適期の薬剤散布を行いましょう。

殺虫剤による防除以外では物理的防除が有効です。施設では近紫外線除去フィルムの展張と防虫ネットの組み合わせで高い防除効果が期待できます。なお、本フィルムはアザミウマ類についても同様の効果が確認されています。露地では、光反射資材であるムシコンマルチ等を圃場に敷設し、飛来侵入を防止しましょう。

### <施設トマト>

#### ○コナジラミ類

トマト黄化葉巻病を防ぐ観点から、タバココナジラミの防除が重要です。栽培終期の促成長期どりでは**増やさない・出さない**対策が重要です。タバココナジラミバイオタイプQは殺虫剤抵抗性が特に発達しており、効果の高い殺虫剤は限られています。本種を増やさないために、防除指針を参考に殺虫剤を選択しましょう。また、野外に出さない対策として、施設外へ出す植物残渣は直ちに埋設処理しましょう。

半促成栽培では**入れない**対策が最も重要です。発生状況を監視するために黄色粘着トラップ（ホリバー黄色など）を100㎡あたり1枚の割合で施設に設置し、コナジラミ類が誘殺されたら、防除指針を参考に殺虫剤を散布しましょう。

### <初夏どりキャベツ>

4月の巡回調査では、ヨトウガやコナガなどのチョウ目幼虫による被害は少ない傾向でした。一方、防除所のフェロモントラップに捕獲されるヨトウガの成虫は平年並、カブラヤガの成虫は例年より多い傾向です。これら害虫

の防除適期は例年連休明けから5月中旬頃です。防除指針を参考にIGR系やジアミド系などの天敵に影響の少ない剤を選択し、圃場を良く観察して適期に防除しましょう。

また、ネギアザミウマ成虫の発生は平年並ですが、今後気温の上昇とともに増加が予想されるため、5月中・下旬をめどに防除を検討しましょう。

#### <ネギ・タマネギ>

べと病は適温（15℃前後）下の降雨後に急速に拡大することがあります。圃場の観察を丁寧に行い、発病が確認されたら防除指針を参考に速やかに薬剤散布を行いましょう。また、さび病は肥料切れすると発生しやすくなりますので、肥培管理に注意しましょう。

#### <施設野菜・花き>

4月の巡回調査では、灰色かび病、うどんこ病の発生が認められています。これらは、例年、外気温の上昇に伴い増加する傾向にあります。両病害とも多発すると防除が難しくなるため、発病した果実、葉や花は早急に処分し、その後系統の異なる薬剤をローテーション散布しましょう。また、茎葉が繁茂しすぎると通風が悪くなり、病害が発生しやすくなるほか、薬剤もかかりにくくなります。適宜、整枝や葉かき等を行い、適切な肥培管理に努めましょう。

上記以外の病害虫についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はEメール（[S0200303@section.metro.tokyo.jp](mailto:S0200303@section.metro.tokyo.jp)）にてお問い合わせ下さい。